

中一 国語科通信

第3号
令和元年11月26日
国語科1年担当
星之内・狭間・奥津

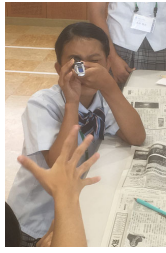


ダイコンでおいあらし体験

七月二十九日、記念ホールにて、「ダイコンすりおろし体験」を実施しました。教科書の「ダイコンは大きな根？」を学習した後の発展学習として、本当に教科書に載っている通りか、自分たちの目で（舌で）確認しました。結果は……辛くて身もだえする生徒、結果に首をかしげる生徒……いろいろいましたが、その後、廊下を通り過ぎた先生たちが「生徒からダイコンの匂いがする」と言われるほどダイコンにまみれた二時間になりました。



糖度計で糖度を測定中……



え…なに貸しな！
「私に！」

「ま…ずい…」
「醤油が欲しい…」



百人一首大会

7月に百人一首大会がありました。まだあまり札を覚えていない段階での大会でしたが、白熱していました。11月現在、30首の歌を覚えていきますので、今後も積み上げて次の大会に臨みましょう。



第2回「百字の獅子」のテーマは「七夕」「青」「海」でした。

細き蔓にしがみつくとことなりいたる
零余子を採りてポケットに入る

〈青〉
「青の不思議」

一組 松山清哉子

青は不思議な色だ。なぜなら系統で分けると寒色となるが、火という視点で見ると一番高温の色だからだ。うすくすると暖かい印象をもち、濃い目、寒い印象となる青は視点を交えるイメージの変わる不思議な色である。

▼「うすくすると暖かい印象をもち」というのが独特。固定観念を捨てて視点を交えると新しい面が見える。面白いですね。

〈青〉
「喜びと嬉しさの青」

二組 安木千紗都

喜びと嬉しさがたくさん詰まった青。青と聞くとき涼しい感じがし、地上では海が、空では雲一つ無い快晴が私達を喜ばせ、暑い日に嬉しい夏服も青色だ。こんなに人を爽やかな気持ちにしてくれる色はあるだろうか。

▼色が私たちの感情に作用することを巧みに表現してくれました。一文めが印象的です。

〈七夕〉
「神がいるなら」

三組 尾崎 紫音

時計を見るときもう七夕が終わるところだ。ふと願った事をしていなかったことを思い出して、「世界が平和になりますように。」とお願ひしたが、人間には無理だと思ふ。でも神が存在するのならいつか叶えてくれるはず。

▼現実と想像をうまく織り交ぜながら、夜更けの情景を暖かく表現していますね。すばらしい。

「全力で半世紀」

狭間 千穂

今年度始まってすでに七ヶ月経って初めての「こんにちは」になりました。もちろん、合同授業でいつも怒鳴っているので何者かはお存知でしょうけれど、一応初めましてなので自己紹介をしておこうかなと思います。

狭間千穂・亥年・しし座(おとめ座説もあり)・O型・大阪生まれ大阪育ち(高校三年で宮崎に転校、大学四年間は東京で過ごし、就職とともに宮崎に戻った)・大学卒業後、宮崎日日新聞社に記者として四年務め、その後、県立高校の講師を経て、二〇〇一年から本校勤務。二〇〇〇年に結婚し、現在夫が一人(福岡に単身赴任七年目)、息子(高一)、娘(中一)の四大家族です。

「THE 個人情報」を堂々と書き連ねてみました。一生懸命長く生きてきたのに、たったの十行で語れてしまう私の人生。「成し遂げた」と思えることなど何一つなく、「今後のビジョンは？」なんて問われても答えられる自信もない。毎日を生きることに精一杯だけど、一つだけ自信を持って言えることは、常に「全力で生きよう」と心がけていること。失敗しても、突然最期の時がきても、常に全力で生きていけば後悔だけはしないはず。だから、朝起きてから寝る瞬間まで、元気がいっぱい全力で生きていきたいのです。(……とはいえ持病の頭痛と加齢による過労で毎日ヒィヒィ言ってますが……)

こんなアラフィフですが、よろしくお願ひしますね。